

とびだせ！はばたけ！みえふくっ子！～みえの次代を担う福祉系人材の育成～

目標

- ・産業界と福祉系高等学校が連携し、広い視野を持ち柔軟な考え方と実践力を身に付けた福祉人材を育成する。
- ・多様な人々と交流する機会を設け、協働して課題を解決する能力を育成するとともに、福祉の魅力を地域に発信する。

三重県・福祉系高等学校の課題

【福祉系高等学校】

- ・課題発見・課題解決型学習の充実
- ・高度な技術や最先端の福祉機器、介護ロボット等に関する学習の充実
- ・志願者数の減少

【自治体】

- ・福祉系人材を育成するための連携体制の構築
- ・介護人材の不足
- ・福祉の魅力発信

実施内容（1年目）

- ・産業界、高等教育機関との連携体制の在り方について検証
- ・生徒の課題発見、課題解決能力を育成するための教育プログラムを産業界や高等教育機関と連携して開発
- ・県内の福祉を学ぶ生徒同士の交流会の実施

めざす姿

【福祉系高等学校】

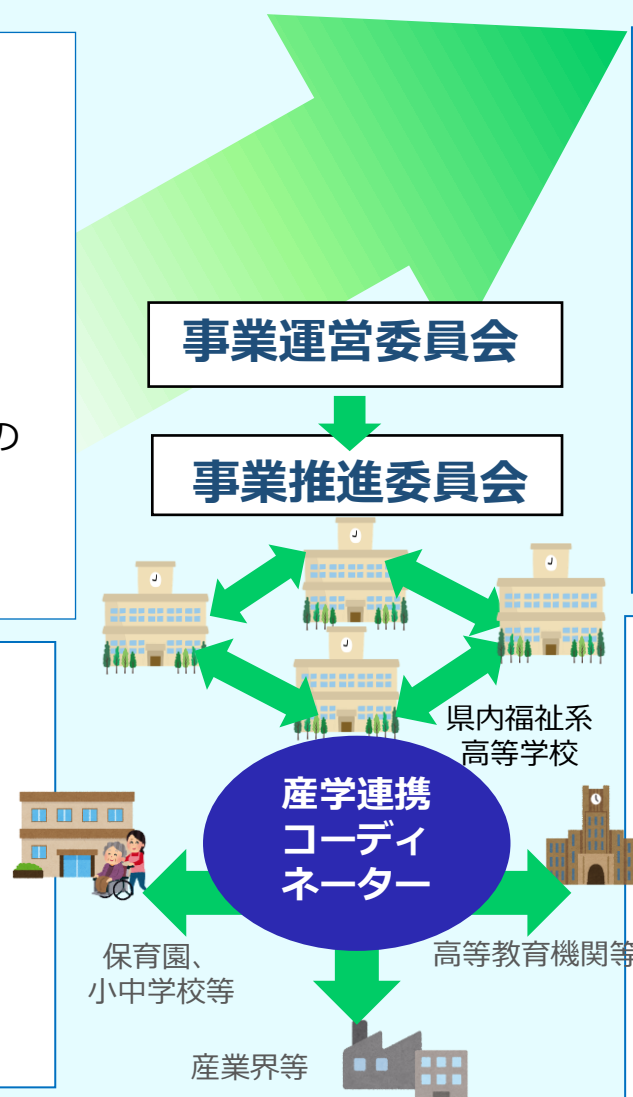
- ・自ら課題を設定し、合理的かつ創造的に解決する力と、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けた福祉系人材の育成

【自治体】

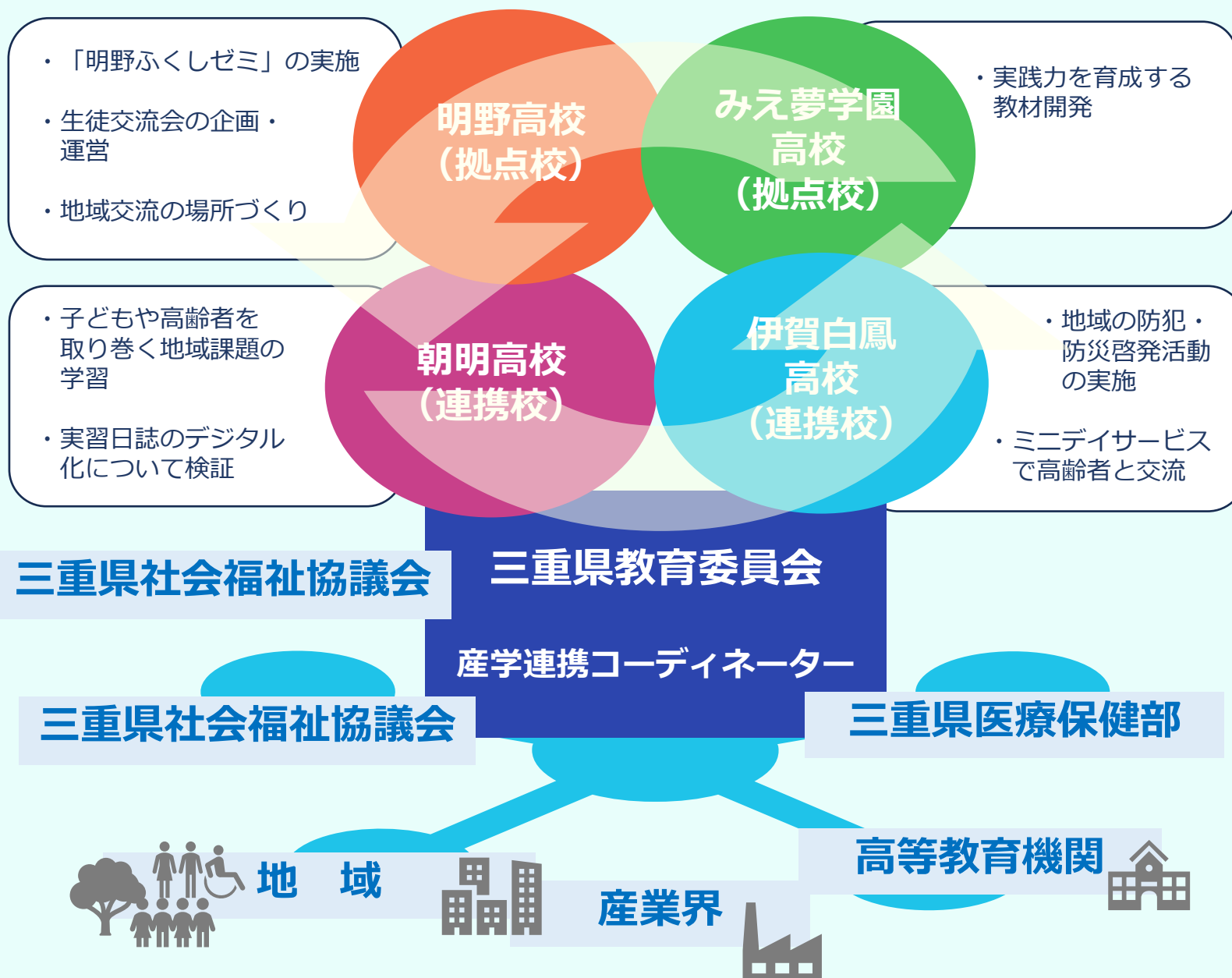
- ・福祉系人材を育成するための産業界と福祉系高等学校との継続的な連携体制の構築
- ・福祉系人材の安定的な確保

実施内容（2年目）

- ・産業界、高等教育機関との連携体制の構築
- ・産業界と連携した課題解決型学習の実施と改善
- ・県内外福祉系高等学校との交流や成果発表の実施
- ・地域交流等による福祉教育の魅力発信



とびだせ！はばたけ！みえふくっ子！～みえの次代を担う福祉系人材の育成～



【各機関の役割】

拠点校

本事業の中心となって産業界、福祉系高等学校の連携体制を構築し、成果を地域や他の福祉を学ぶ高校に発信する。

連携校

拠点校と連携して事業に取り組むとともに、各学校の課題に応じた取組を実施する。

三重県教育委員会

事業目的を達成するため拠点校と連携校の取組状況を把握し、指導助言する。

事業運営委員会

意思決定機関として福祉系高等学校の課題を把握し、産業界等との連携体制の在り方について検討する。

事業推進委員会

事業運営委員会の決定に基づき事業計画を具現化する。

とびだせ！はばたけ！みえふくっ子！～みえの次代を担う福祉系人材の育成～

明野高校 農業学科 家庭学科
小学生との交流会（子ども食堂）



明和町社会福祉協議会
高齢者スマホ教室



コープみえ
高齢者スマホ教室

（株）メディカルジャパン
最新の福祉・医療機器の見学

明野小学校
出前授業、交流会

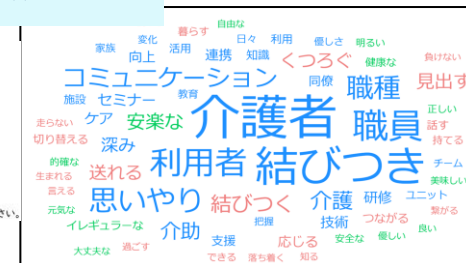
明野高校



4校が連携した取組

生徒交流会
合同施設見学

大学教員・介護福祉施設職員
介護の実践力を協議・教材開発・効果検証



保々地区連合自治会
保々地区敬老会

朝明高校



保々の自然に親しむ会
地域の福祉活動について学習



聖十字保々在宅介護ディサービスセンター
高齢者の方と交流



医療法人富田浜病院
施設見学介護ロボット体験授業

三重介護生産性向上支援センター
介護ロボット体験授業

よってこ保々
イベント、地域食堂ボランティア

伊賀市社会福祉協議会
ふくしみんなde学び隊、出張授業

上野西小学校、上野東小学校、久米小学校
出前授業

伊賀市健康福祉部
世代間交流



令和6年度の成果

- ・福祉系高等学校4校が生徒交流会をとおして、生徒が福祉を学ぶ意義について考え、学習意欲を向上させることにつながった。
- ・各校で地域や産業界等と連携して生徒の福祉や介護の実践力の向上に向けた取組を実施し、専門的な知識や技術を習得する機会を充実させることができた。

課題

- ・各校それぞれの取組は充実しているが、福祉系高等学校4校が連携した取組は生徒交流にとどまっている。4校が育成する人材について共通意識を持って事業に取り組む必要がある。
- ・福祉系高等学校4校の実践を共有する機会が少ないため、県内の福祉を学ぶ学校が一堂に会する成果発表の機会を創出する必要がある。
- ・福祉・介護人材不足を解消するため、福祉の魅力を発信する取組をさらに充実させる必要がある。